

式辞

本日ここに、多数の御来賓の皆様方の御臨席を賜り、平成30年度福島県立湯本高等学校の卒業証書授与式を挙げていただけますことは、誠に喜ばしい限りであります。

高等学校の全課程を修了し、光栄ある卒業証書を手にした皆さん、卒業おめでとうございます。そして、この良き日にあたり、お子様の健やかな成長を願い、深い愛情を持って育てられました御家族の皆様へ、心よりお喜びを申し上げます。

また、本校の教育活動に御支援や御協力を頂いた、同窓生の皆様はもとより、地域社会の皆様へ敬意と感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さんにとって卒業は、クラスの仲間や高校生活と惜別する時ですが、新たな人生に向かってスタートする時でもあります。現在、皆さんの脳裏には高校生活で得た多くの友人との出会い、3年次に開催された「さほ祭」、校内球技大会、修学旅行、中間考査や期末考査で苦勞したことや部活動での感動など、高校生活を通しての様々な思い出が走馬燈のように次から次へと浮かんでくるものと想像されます。

皆さんが3年前の入学式の日には渡された「学年だより第1号」には次のような記述があります。覚えているでしょうか。

「自分の夢は自分の手でつかむもの。誰かが与えてくれるものではありません。」とか「努力するものにはさまざまな援助の手が与えられますし、自ら努力しないものには誰にも助けられません。」とあります。

この考えのもとで、学年主任を始めとしたクラス担任が、皆さんの学校生活が実り多いものとなるように邁進してきました。私は、本校の先生方は努力する者に対して様々な援助の手を差し伸べてきたと確信しています。

私はこれまで、皆さんの日々の努力の結果が実を結ぶ場面に多く出会いました。

例えば、フラダンス部のフラダンス甲子園での全国優勝を始め、吹奏楽部の13回目の全国大会出場や水泳部の全国大会での活躍。野球部、サッカー部、弓道部、剣道部、バレーボール部、陸上部、家庭クラブ、ESS部等が県大会で上位に入賞していることや東北大会での活躍等、枚挙にいとまがありません。もちろん、その他の部活動においても、真摯に部活動に取り組む姿は素晴らしいものがありました。

学習面においても、英検準1級を取得する者がいたのを始め、自己の目標とする大学や看護学校等に多くの皆さんが進路を決めています。また、今年度は特進クラスの生徒が初めて卒業を迎えています。高い目標を持ちながら国公立大学や難しいと言われている私立大学等に挑戦してくれました。国公立大学についてはまだ発表になっていませんが、期待しているところです。

ところで、ここ2・3年哲学者が書いた本が売れているそうです。「勉強の哲学」等が売っていたのも記憶に新しいところです。書店に行くと目立つところに哲学関係の本が置いてあります。哲学がブームになる時は、これから先がどうなるのか読めず社会が混迷している時だそうです。それは、今まさに皆さんがこれから生きていかなければならない社会です。

新進気鋭の哲学者であるマルクス・ガブリエルは、「世界は存在しない。だが、一角獣は存在する。」と謎めいたことを言っています。

彼によると、世界とは「すべてを包括する全体」です。そして、すべてを考えると世界も含まれてしまうので、世界それ自体が認識されることがないのです。

私にとって彼の言葉は次のように解釈できます。ある世界の全体像を掴み理解したと思ってもそれは錯覚ですよ。そもそも全体像など掴むことができないんですよ。彼の言葉は、私たちがよく陥りがちな、自分がいま見えている世界だけがすべてであると思っただけの世界に気づけなかったり、ほんの一部しか理解していないのにすべてを理解したつもりになってしまうことへの警鐘なのではないでしょうか。

私は今日卒業を迎えた皆さんに、独善に陥ることなく謙虚な気持ちを持ちながら、様々な世界を見ることができる知性と人間性を養ってもらいたいと考えています。それが、この先の見えない混迷する社会を生き抜くのに不可欠なことだと思います。そして、湯本高校の卒業生であることに誇りと自信を持つことも忘れないでください。

最後に、湯本高校での3年間で皆さんにとってかけがえのないものであったことを願い、そして、湯本高校が皆さんにとって誇れる学校であり続けられるような学校づくりを行うことを約束して、式辞といたします。

平成31年3月1日

福島県立湯本高等学校長 二瓶 晃一